



映画監督  
北村 豊晴さん

35

### 郷土を舞台に映画を製作

甲賀市生まれの女性が主人公で描かれる台湾映画「愛你一万年」(一万年愛してる)。昨年12月には、信楽駅などで撮影が行われ、本誌1月15日号でもご紹介しました。

この映画の監督を務める水口町出身の北村豊晴さん。現在は、台湾で俳優や映画監督として活躍中です。

「日本で撮影するなら甲賀を舞台にできればと思っています。甲賀には外国の映画監督の視点でみて、日本的な部分が多くあります。今回の撮影では、そんな味があり、生活感のあるまちの雰囲気がかうまく撮れました。」と手ごたえを感じておられます。

学生時代から役者へのあこがれはあったものの、市内の高校で野球に熱中する普通の高校生だったという北村さん。先生の勧めでたまに観た舞台がきっかけとなり、役者への思いが強くなり劇団に入団、その後、拠点を台湾に移し活動されてきました。今回撮影された映画は北村さんにとって初めての長編映画の監督となる作品です。

「自分の年齢で、外国で長編映画の監督ができることは非常に幸運なことだと思います。でもその一方、夢をあきらめず、少しずつでも前進していけば、チャンスは誰にでも必ず訪れるものだ」と実感しました。このチャンスを逃さず次に生かしたいです。」と話す北村さん。

離れてみて改めてよさが分かったというふるさと甲賀を舞台に、将来、忍者を題材にした映画を制作したいという構想もあるそうです。今回撮影した映画の日本上映は未定とのことですが、北村監督の作品が近くの映画館で見られる日も遠い話ではないかもしれません。



▲撮影で出演者に指示を出す北村さん

## 世界にひとつだけの焼き物展示

～世界にひとつの宝物づくり展～

**陶** 芸の森で1月17日まで、「世界にひとつの宝物展」が開催されました。同展は、土を素材にもものをつくる喜びや感動を味わうことを目的に、子どもや障がい者の皆さんが直接粘土に触れ作り上げた作品を展示したものです。市内小中学校をはじめとする学校・団体でつくられた作品128点が展示されました。沖繩県などで伝わる伝説の獣「シーサー」の置物や、ランプシェードなど個性豊かで生き生きとした作品の数々に訪れた人にも、ものをつくることの喜び、素晴らしさが伝わりました。



▲個性豊かな作品の数々

## 生き物、自然から見る鈴鹿山脈

～みなくち子どもの森・鈴鹿山脈の大地と生き物～

**み** なくち子どもの森自然館で、3月14日まで、冬季特別展示「鈴鹿山脈の大地と生き物」が開催されています。市東部に位置する鈴鹿山脈。ここにはたくさんの山がずらりと並んでいます。そして多くの植物、動物が住んでいます。同展では、貴重な動物の標本や写真、資料などで鈴鹿山脈を紹介、その雄大な自然に触れることができます。また鈴鹿山脈の自然にちなんだ工作やクイズのコーナーもあり、楽しく知ることができるとなっています。



▲鈴鹿山脈に住む生き物が並ぶ館内

## 優美な舞台芸術に魅了

～本物の舞台芸術体験～

**日** 本の代表的な伝統芸能として国際的にも有名な能。しかし実際にはなかなか観る機会がありません。そんな能を観て体験する、本物の舞台芸術体験事業が1月19日に水口小学校で、20日に貴生川小学校で行われました。この日は全国的にも有名な能楽師の皆さんの指導による謡のかけいや、能のおはなしがあり、また、能面を実際に顔に着ける体験も行われました。最後には、能士蜘蛛を鑑賞、優雅で迫力ある動きで繰り出される舞台



▲能を体験する児童（貴生川小）

に児童は思わず身を乗り出しながら鑑賞。伝統芸能を学び、楽しみ、身近に触れる貴重な機会となりました。

## 今年もみんなの安全を願っている

～貴生川幼稚園へ「はんどろ忍者」から門松届く～

**子** どもたちのいない年末に、玄関にそっと置かれる門松。今年も貴生川幼稚園に「はんどろ忍者」から門松が届きました。「はんどろ忍者」は、こどもみんなが、なかよくなつて、びょうきやじこにあわないうつねがっている「はんどろ忍者」とメッセージが添えられた大きな門松。「はんどろ忍者」に扮した地域の方が、子どもたちの1年間の幸せと安全を祈り贈っているもので、今年で14回目となります。



▲はんどろ忍者に向かって全員でお礼

な門松に大喜び。1月8日には、全園児が玄関から、はんどろ忍者が住む飯道山にむかって大きな声でお礼を言い、1年の元気を約束しました。

## 忍たま乱太郎が甲賀に参上

「忍たま乱太郎・忍者の世界」

**漫** 画やテレビアニメで大人気の「忍たま乱太郎」の原画などを集めた展示「忍たま乱太郎 忍者の世界」が1月6日～11日、柑子八公民館で開催されました。

この催しは、忍者の甲賀をPRするとしても、もっと忍者の活動を知ってもらおうと企画したものです。同公民館が乱太郎の原作者「尾形兵衛」の事務所へ依頼し実現しました。

会場では、絵本原画やアニメ原画など本物の乱太郎と、火縄銃、手裏剣などの忍者道具がずらりと並び、忍者の世界が繰り広げられました。貴重な展示物が多く並びあつて、中には関東地方から新幹線を使って訪れる人も、「尾形さんの作品がここまで多く展示されることは全国的にも珍しいのでは。忍者ワールドを満喫できました。」と話されていました。



▲貴重な忍者道具の展示



▲色鮮やかな原画が展示された館内